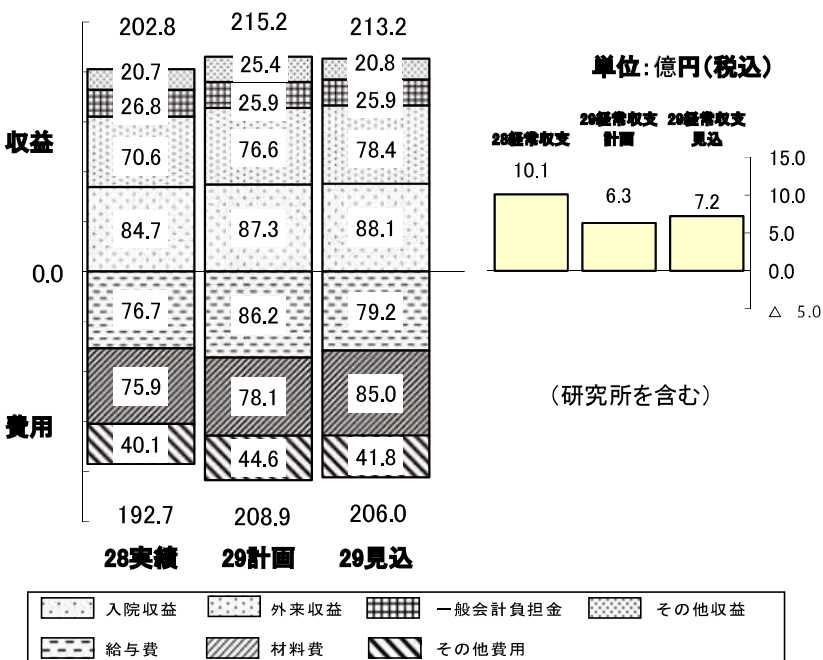


がんセンター中央病院の取組状況

1 平成29年度計画と決算見込比較



<収益>

収益は213.2億円で、計画(215.2億円)に比較し2.0億円の減収。

- ・入院収益は、手術件数の増などにより0.8億円の増収。
- ・外来収益は、注射料、投薬料の上昇などにより1.8億円の増収。
- ・その他収益は、国等からの委託研究や受託研究収益が計画を下回ったことなどにより4.6億円の減収。

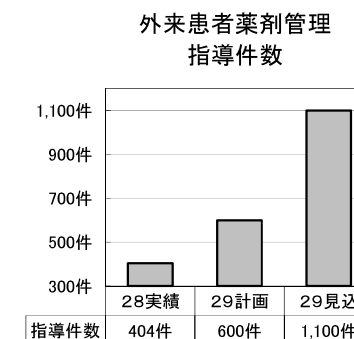
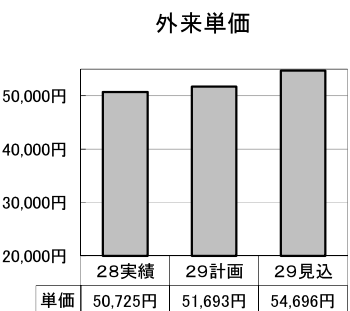
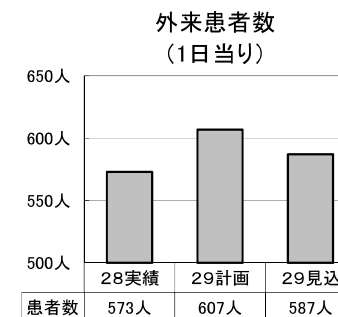
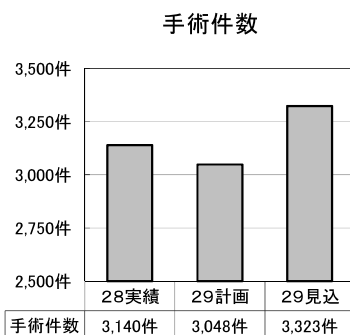
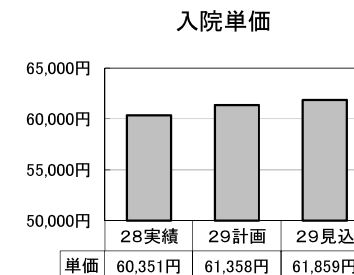
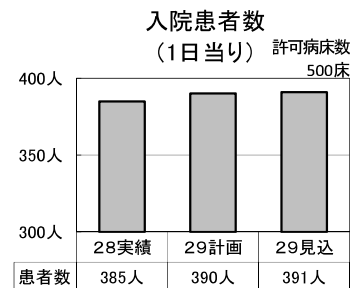
<費用>

費用は206.0億円で、計画(208.9億円)に比較して2.9億円の減少。

- ・給与費は、医師等の欠員や計画と実績の単価差により7.0億円の減少。
- ・材料費は、高額な抗がん剤等の使用量の増などにより6.9億円の増加。
- ・その他費用は、研究研修費の減などにより2.8億円の減少。

<経常収支>

経常収支は7.2億円の黒字となる見込みで、計画(6.3億円の黒字)に比べ0.9億円上回る。



【参考】収益的収支見込（がんセンター中央病院（研究所含む））

(単位:億円)

		H28 決算	H29		
			計画	見込	見込－計画
収 益	入院収益	84.7	87.3	88.1	0.8
	外来収益	70.6	76.6	78.4	1.8
	一般会計負担金	26.8	25.9	25.9	0.0
	その他収益	20.7	25.4	20.8	△ 4.6
	収 益 計	202.8	215.2	213.2	△ 2.0
費 用	給与費	76.7	86.2	79.2	△ 7.0
	材料費	75.9	78.1	85.0	6.9
	その他費用	40.1	44.6	41.8	△ 2.8
	費用 計	192.7	208.9	206.0	△ 2.9
経常損益		10.1	6.3	7.2	0.9
経常収支比率		105.2%	103.0%	103.5%	0.5%
医業収支比率		91.8%	89.4%	91.1%	1.7%

※ 特別利益、特別損失を除く

2 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	単位	H28 実績	H29 目標	H29 見込	達成率
新入院患者数	人	10,289	10,695	10,653	99.6%
病床利用率	%	76.9	78.0	78.1	100.1%
新外来患者数(初診料算定数)	人	5,577	5,665	5,779	102.0%
1日当たり外来患者数	人	573.1	607.0	587.2	96.7%
手術件数	件	3,140	3,048	3,323	109.0%
治験件数(企業治験及び医師主導治験)	件	164	168	175	104.2%
臨床研究件数(倫理審査委員会新規承認件数)	件	193	195	200	102.6%
緩和ケア苦痛スクリーニング実施件数	件	12,021	10,500	12,000	114.3%
外来患者薬剤管理指導件数	件	404	600	1,100	183.3%

3 経営改善に関連する主要な取組

（１）手術室の増室

当初は工事の影響で手術件数の減少が懸念されたが、工事を土日中心に実施することで問題が解消した。

工事自体は順調であり、予定通り３月１６日（金）に完了予定。

１室増室されたことにより手術件数の更なる増加を見込んでいる。

（２）地域連携クリニカルパスの再稼働

かかりつけ医と中央病院の医師ががん患者の治療を協力して行うために治療経過を共有する「がん地域連携クリニカルパス」の運用がストップしていたが、経過観察がしやすい乳がんパスの運用フローを見直し、９月に再稼働させた。１２月末時点で４４件。（過去最高は平成２３年度の６９件）

再稼働にあたりこれまで１度でもやりとりのあったかかりつけ医にアンケートを送付し、地域連携クリニカルパスの運用についての協力をお願いした結果、連携医療機関数が２９施設から７２施設となった。

現在前立腺がんパスの作成が進行中であり、後方連携の更なる強化が期待できる。

治療計画作成にともなう診療報酬（がん治療連携計画策定料１ ７５０点）が算定できるだけでなく、かかりつけ医が信頼できるがん専門病院として、患者紹介数の増加が今後期待できる。

（３）病棟薬剤業務の開始および外来薬剤管理指導について

４月より病棟薬剤業務をスタートさせ、６月に病棟薬剤業務加算の施設基準を満たした。

これにより、ＤＰＣ係数である機能評価係数Ⅰが０.００６３点増点し、年間約２,０００万円の増収となった。

また、外来薬剤管理指導件数（がん患者指導管理料３）が昨年度と比べ増加した。（平成２８年度実績４０４件、平成２９年度見込１,１００件）

経営改善をより意識し、診療報酬の算定件数増加が今後も期待できる。